

NPシステム開発 改善基準対応デジタコ

低価格 トラ業者に好評

4時間連続運転で警告告音

NPシステム開発(塩梅敏社長、松山市)の新型デジタコ「Tacho(イー・タコ)」がトラック事業者の支持を得ている。ハードウェアと組み込みソフトウェア(ファームウェア)を自社開発し、1台当たり10万円を切る低価格を実現。労働時間の改善基準告示に対応して、違反を自動把握できるようにした。従来型の販売実績はこれまで年間4千、5千台で推移してきたが、イー・タコは1年足らずで7千台を販売。4月からのデジタコ装着義務拡大に合わせ、更なる浸透を図る。(江藤和博)

ランニングコスト大幅削減

同社はデジタコを扱い始めた15年前から工場製作所のハードを使ってきたが、イー・タコはハードからソフトまで一貫して自社開発し、より市場に近い形で細かい要望に柔軟に対応できるようにした。低価格化も実現し、通信モジュールやオプションカメラ、動態管理を備えたタイプで10万8千円、他の3機種は8万8千円、9万8千円と10万円を切る値段に抑えた。ランニングコストの安さも大きなメリットだ。従来型デジタコの運用形態は、運送会社のサーバーに直接システムを導入する方式と、モバイル通信によりセンターサーバーで集中管理するクラウド方式に分かれていたが、イー・タコでは従来の運行管理システム「地球号」と新規開発の「Web地球号」の両方で使用可能にした。クラウド式ではこれまでデータ通信費や車載機に1台で1カ月当たり3千円前後のランニングコストが発生していたが、Web地球号ではSDカードの運行データを事務所パソコンで読み取り、事務所からセンターサーバーに送信することで車載機のデータ通信費を不要とし、ランニングコストを大幅に削減した。

一日の休息期間 累計表示機能も

一方でイー・タコには、労働時間規制でコンプライアンス(法令順守)を支援する機能を付加。改善基準告示に定められた連続運転時間(4時間)をドライバーに警告音で知らせるほか、一日の休息期間の累計を表示して注意を促す。また、告示超過項目一覧表や拘束時間管理表により違反状況をひと目で把握できるようにした。

労働時間規制が厳しくなる中で、200台のデジタコを改善基準未対応の機種から一挙に代替したトラック事業者も出ている。コンプライアンス支援の潜在需要は大きく、「改善基準に準拠した機器として、地元の大事業者に関心を持ってくれるところが多く、問い合わせも相次いでいる」(小田勝也営業統括本部長)。

義務化拡大控え キャンベ展開へ

デジタコ義務化拡大を控え、今後キャンペーンを展開する方針だ。小田本部長は「トラックドライバーが持ち込んだデジタコは十分

国土交通省から型式認定を受け、発売までの半年間でテスト走行を重ね、導入事業者との間でほとんどトラブルは無い。

な機能が付いてないケースもある。イー・タコを一つの選択肢として提案していきたい。まずはその恩恵を体験してもらい、評価してもらおうのが先決で、最初からもつては考えていない。予想以上の評価をいただけており、営業要員を現在の22人から40人超に倍増する」としている。4月から一年間で1万5千台の販売を目指す。

ランニングコストの安さも大きなメリットだ。従来型デジタコの運用形態は、運送会社のサーバーに直接

システムを導入する方式と、モバイル通信によりセンターサーバーで集中管理するクラウド方式に分かれていたが、イー・タコでは従来の運行管理システム「地球号」と新規開発の「Web地球号」の両方で使用可能にした。

クラウド式ではこれまでデータ通信費や車載機に1台で1カ月当たり3千円前後のランニングコストが発生していたが、Web地球号ではSDカードの運行データを事務所パソコンで読み取り、事務所からセンターサーバーに送信することで車載機のデータ通信費を不要とし、ランニングコストを大幅に削減した。